



公益社団法人日本山岳会
石川支部 支部報



2015 年度(平成27年度) 2 号

平成 27 年 10 月 8 日発行

I.計画山行、行事報告	1～13
II.その他行事等報告	13～20
III.今後の行事予定	20～22
IV.その他お知らせ	22～23

5 支部合同懇親山行が 11 月 7 日（土）～8 日（日）と栗津温泉をベースに実施します。本年は石川支部が担当ですので、各位のご協力をよろしくお願い致します。

I. 計画山行・行事報告

1 (公) 自然観察会

■ 7 月 4 日（土）

- ・場所 ガンブ 蟹淵（能美市鍋谷地区）
- ・参加者（会員）安田 CL、岡本、谷路、樽矢、前川、埴崎、
（一般）クリスラウ（谷路知人）、樽矢久美子（樽矢夫人）、前川文平（前川孫小 2）

梅雨季特有の沈鬱な空模様の中、午前 9 時に全員集合。安田リーダーの紹介に続き全員の個人紹介で、安田・岡本車に分乗して鍋谷林道の待避所（5～6 台駐車可）に入る。途次の田園風景の変転に谷路会員の案内に、日本の古文書の研究に研さんを積むクリスさんが一々頷いている。全員ゴム長着用でクマ出没注意の看板から右折で車道を辿る。RV 車なら到達可能の転回場より本格的な山道に入る。山裾はアテ（アスナロの変種＝ヒノキアスナロの方言）の植林地、アテは石川県の木（s41 指定）で加賀はアテ、ヒバ。能登はアテ、ボヤクサマキ、ヒバと呼び、元々は県内に広く自生していた。珠洲宝立山の自生林が知られる。高木になるが光の入りづらい林内で下枝から根を発して増殖する珍しい性質。ノリウツギ（糊空木）の白の花が林内で際立つ。この木は高さ 2～4m で枝先に円錐花序と装飾花をつける。ミヤマイラクサ（深山刺草）は春季葉が完全に開く前の若い茎は山菜として重用される。故力丸会員の山中サバイバルに対応する食用植物の知識を蓄える話が懐古される。沢筋を上るが崩落が所々有り慎重に歩を運ばせる。忽然として眼前に蟹淵が開ける。

NHK の過去の紹介番組で「淵」と名付けた由来探索があったが河流の一部と言うよりも将に「池」と表現できる。標高 268m、周囲 300m、水深 6、7m の佇まいは、お化け白大蟹の伝説を彷彿させる神秘的な光景である。上部より数本の沢が流入しているが、淵上端の沢からは土砂の崩壊の流入が続き、淵の自然埋め立てが進み、放置すれば全体の埋没が危惧され、改良着手に 46 人とされる入会地権者の全体合意が取れず、関係者はヤキモキしている。湖面を右回りで一周する。低い標高地で有りながら、ここは本来亜高山帯に生息する植生と昆虫の特異な生態が観測される貴重なポイントである。代表は市の天然記念物指定で絶滅危惧種のルリイトトンボであり、「空飛ぶ宝石」の形容の通り青色の小さな姿が水面に映えて見られる。捕虫網でとらえたルリイトに前川会員のお孫さんは感心して見とれる。交尾状態でのハート型のオスメスは幻想的で雰囲気がある。酸性・水温・標高の三要素が相まったの、この淵の特徴はルリイトが代表するトンボで 10 種が居りオオルリボシヤンマも見られる。水面はヒツジグサ（羊草）が一面に地下茎から葉と花を一つず

つ浮かべる様子が見られる。尾瀬などの亜高山帯湿原植生なのだが、日本古来の生育種で、未の刻（午後2時）頃に花を咲かせるとのことからの命名だが、ほぼ日中を通して開花している。脇ではカンガレイ（イグサに似たホタルイ属）が水中から60cm程度で葉が発達せず、茎のみからなる植物。茎の先端から少し下に4～20個の花序が頭状についている。コバルトブルーの淵を一周する。モリアオガエルの産卵最盛期で、いたるところで水面に接して卵塊が垂れ下がっている。卵塊は手に取るとブヨブヨしたゼリー状で柔らかな感觸。安田会員のモリアオガエルの産卵期のオス・メスの行動描写が恰も目の前で展開されているように聞き取れる。林道に戻ると林間にカケスカヤマガラカシジュウカラか不詳だが「ジエージェー」「スイスイ」「ビービー」の鳴き声が響き、サンコウチョウ（三光鳥）と話題になる。サンコウチョウは夏鳥で飛来し、繁殖期（初夏）のオスは目とクチバシの周りが明るい水色で長い尾は体長の三倍あり、スギやヒノキに営巣し、地

鳴きは「ギィギィ」さえずりは「ツキー（月）、ヒー（日）、ホシー（星）、ホイホイホイ」で三光鳥と名付けたようである。日に二度の案内出勤もあって、何とか飛翔の素晴らしい姿が見たいとは安田会員の述懐。ほかにアカチョウビンは燃えるような赤のクチバシと体全体がやや赤い色で覆われていることから「火の鳥」の別名。夏鳥で飛来し、体長27cm前後、翼を広げると40cmで飛ぶ姿は水色の鮮やとのことで、カエル、サワガニが生息するこの地に多く見られ、「キョロロロ」と鳴く。帰路には鍋谷鎮守の八幡神社に立ち寄る。水護りの神として、1100年来の歴史を刻む社殿にクリスさんは石段を登って学びの成就と滞在の安全を祈願していたようだ。こくぞう交流館に戻り、館内の手造りのテーブルと椅子で早めの昼食を取り、クリスさんからは貴重な里山体験に感激とのお礼があり、安田会員の絶妙の解説に感謝し、前川会員の締めで終了した。

（文：埴崎滋・写真：前川 陽）



蟹淵の伝説は、「まんが日本昔ばなし」にも登場しています。

平成3年11月2日放送。

（まんが日本昔ばなしデータベースより）



2.H27年度第2回支部役員会議

■7月4日（土） 19時～21時40分

- ・場所 金沢市総合体育館 第三会議室
- ・出席者（名簿順） 津田 関本 前川 岡本 八十嶋 池本 大幡 樽矢 埴崎 村上
前田 織田 多野（親子登山教室講師として）

・議題等

1. 第三回白山親子登山教室実行委員会（進捗状況と今後の対応について）

- ・現在の応募状況・・・3家族（8名）
- ・今後の対応・・・会員の周囲の対象者に声かけしてもらう。
会友の新人や、支部員にも参加を推奨する。
座学参加の部外者には資料代として300円負担してもらう。
申込詳細は支部HPの{白山親子登山教室実施要領}を参考とする。

2. 山研集会（8/1～2）

- ・応募状況・・・現時点では、池本3名、織田1名、津田1名 埴崎4名
村上2名 大庭2名で今後もっと増えるだろう。

- ・前金割引・・・10名以上の団体で10日前までに一人1,000円指定口座に振り込めば、一泊料金は2,500となる。（但し、キャンセル時の返戻金無し）・・・担当者の織田さんへ対応依頼

3. 五支部合同懇親山行

- ・11/7（土） 宿泊旅館 粟津温泉「露天のゆ 金閣」@14,000円（酒代込）

- ・11/8（日） ・登山コース（既に、火燈山登山に決定）
・観光コースについて審議

その結果

「中谷宇吉郎 雪の科学館」と「深田久弥 山の文化館」および深田久弥ゆかりの地（句碑のある江沼神社、生家、墓地等）散策に決定。その後、宿泊先から近い名刹「那谷寺」は紅葉でも名高いことから、これを追加する。

4. 支部クライミングクラブ創設

- ・目的 支部活性化及び支部増強施策として支部内人材の登用
- ・運用 クライミングクラブ（体制案）を立ち上げ、講習は当面「2回(ウィークデー)/月」実施。
その他、フィールド講習も実施。
＜当日：参加希望者＞ 池本 織田 樽矢 関本 岡本 前田 八十嶋 前川 以上8名
- ・今後、支部内に参加希望者を募っていく。
* 田中講師には事前に概要を相談済みで、改めて講師を依頼する。

5. その他

- ・本部会費振込
本部より本部会費の振込協力依頼があったため、協力者を募った結果、織田、岡本、樽矢、村上 池本の各氏から協力回答があった。 今後、支部内にも協力依頼を行っていく
- ・行事参加率の向上(支部、他支部、本部)・・・参加者が固定化の傾向にあり、なるべく
全員の平均した参加協力を要請する。
- ・会友関連・・・最後に本年度第一回役員会議で審議された「支部会友制度の在り方」についての意見提起がなされたが、第一回役員会議での決定事項を踏まえ、次期総会までに更なる知恵出しをお互いが図り、円滑な支部運営に向け努力していくことを確認しあう。

(文 前川陽)

3. (公) 親子登山教室 (座学)

■ 7月12日(日) 第1回

・場所 キゴ山ふれあいの里研修館

・時間 9:00~14:30

- ・講義&講師 ①山を知ろう (田中康典) 9:30~10:15
②登山の基本 (関本邦晴) 10:30~11:15
③地図の読み方 (中川博人) 11:30~12:15 12:15~13:30 (昼休み)
④天気の見方 (多野正一) 13:30~14:15

プロジェクターおよび資料等を使用し説明。

・参加者 (一般) 大西嘉和 宙人 飯山慈人 滉太 山戸博晃 直子 心 桶作幸宏
大西美保 健心

(支部) 田中 関本 中川 多野 津田 大幡 前田 織田 樽矢 池本順 岡本 前川)

4. 北アルプス合宿

■ 7月19日(日) ~ 20日(月・祝)

・場所 槍ヶ岳 (飛騨沢コース)

・参加者 八十嶋 (CL) 池本順 木村

当初予定のコースは、台風11号直撃で大幅変更を余儀なくされ、「槍ヶ岳」一本に絞る。

17日、八十嶋君から「槍・穂の雨のピーク明朝6~8時で、白出沢・滝谷出合が増水、渡渉困難が予想されるため、18日出発は見送りたい・・・」との連絡が入る。

19日、雨雲が穂高の峰をどんよりと覆う空模様の中、06:40 新穂高温泉バスターミナルを出発、蒲田川右俣林道に入る。白出沢の護岸工事に当る作業員が「昨日の増水は凄かった、巨岩を押し流す濁流が川幅一杯を覆い尽くし・・・」一夜明け雨が上がり、急峻な山肌を走る流れは趣を変え、細い水音を響かせるだけの河原が広がっている。滝谷出合の木橋は無事だ、対岸に出、藤木九三のレリーフ前で小憩し、「槍平小屋」に着く。

小屋を出るところからポツポツと降り出して来た。千丈沢乗越分岐手前あたりから、台風崩れの強風が横殴りの雨を巻き込み一步一步踏みしめての登りに。15:10 飛騨乗越(3020m)にたどり着く。視界3m 薄暗く風雨強まれど 収まる気配なし。計画段階で岡本さんが、「このメンバーでは、あなたの体力・体調が全てを決める」と言われてきた。"

スマン、時間食ったなー” “そんなことないです9時間切ってます、予定どおりに来てますヨ” 晴れていれば槍が目の前に、なんて考えるのはやめよう、とにかく立っているのがやっとの風に押されて15:20 テント場に着き、ひとまずは「槍ヶ岳山荘」に身を滑り込ませる。

恥ずかしい話だが失敗談を一つ、この天気でも横尾から槍ヶ岳を目指した登山者で小屋は満員の盛況だ。Y がテン場取りの順番に並ぶ間に、何気なく自販機の缶ビールに手を出した。ゴクリと口にした瞬間、胃袋がひっくり返り手指の先から震えが来た。冷えた体に冷たいビール、いつまでも止まらぬ悪寒にストーブに縋りつく。食べ物も寄せ付けず青息吐息、二人にはいらぬ心配を掛けた。“池本さん小屋泊まりにして下さい、この風だとテント3人キツイですから” との申し出に素直に従った。翌朝、雨こそ小止みになったが強風収まらず、

その中でのテント飯。頬を叩きつけるテントの揺れと、ゴーゴー渦巻く風音にK君眠れぬ一夜を過ごしたようだ。槍の穂は諦めて強風の中下山準備に取り掛かる。中川さんに下山路「横尾」を進め

られるが、収まりだした風と、小屋主の “この雨だったら滝谷の渡渉大丈夫だろう” との声に「槍平」コースを取ることを決する。下り出してしばらくすると、今までの風が嘘のように収まりだし中崎尾根方面に視界が広がり出す。シナノキンバイの可憐なお花畑に慰められ、もう一筆加えるなら、年寄りのオーバーペースが祟り、膝に痛みを

メンバーは八十嶋 (CL)、池本、木村の3名。7月18日出発の予定であったが、雨のため翌日へ延期。7月19日、新穂高温泉より6時25分から登山開始。穂高平小屋7時15分、滝谷出会9時20分、10時30分に槍平小屋着。長めの休憩をとり、11時20分より槍ヶ岳山荘へ向けて出発。途中、ガスにより視界が悪く、また、かなりの強い風雨により体力消耗の激しさを絶えず感じていたが、立ち止まる事での体温の低下の方が著しく、極力休まずに、ゆっくりと足を動かし続けながらの登りとなった。槍ヶ岳山荘テント場15時20分着。テント内では、体温を上げるために服を乾かし、鶏鍋を食べた。一晩中、テントが強風に煽られ、テント内に浸水もあったが、昨年購入したシュラフによりなんとかテント内で過ごす事ができた。

翌日、ガスは残り、槍ヶ岳を臨む事もできず。槍ヶ岳登頂は断念した。東側より上高地の方へ下る提案もあったが、時間や距離的な事を考え、来た道に戻る事となった。6時40分より下山開始。

抱えながらの帰り道となる。15:00 新穂高登山センター着。下界に降りた木村君の第一声は “青空ですね!” 暴風雨の幕営も初体験の彼の本音だろう。 槍に立たせてやりたかった。

(文：写真 池本順平)

途中、ガスが消え昨日とは異なる姿を見る事ができた。槍平小屋8時50分着。新穂高温泉に13時着となった。

感想としては、シュラフやテント、防寒具やインナーなどの装備の大切さを身にしみて感じる事ができた。命を守るための装備と改めて実感した。また、強風雨の怖さを知り、逆にメンバーの存在や景色など無意識の内に精神的な支えになっているものだと感じた。

(文 木村創史)



5. (公) 親子登山教室 (座学・フィールド実習)

■ 7月26日 (日) 第2回

・場所 キゴ山ふれあいの里研修館

・時間 9:00~14:30

・講義 (講師) ⑤登山計画の立て方 八十嶋仁) 9:15~10:00

⑥山での健康 (津田文夫) 10:30~11:15

⑦キゴ山を歩いてみよう(織田 樽矢 池本順 中川) 11:15~13:15 (昼食は行動食で)

⑧白山登山 (岡本明男) 13:30~14:14

プロジェクター、資料、地図、コンパス等を使用し説明

・参加者 (一般) 大西嘉和 宙人 飯山慈人 滉太 山戸博晃 直子 愛心

粟田真人 完果 敦大 貴人 大西美保 健心

(支部) 八十嶋 津田 織田 樽矢 池本順 中川 岡本

6. 山研集会

■ 8月1日(土)～2日(日)

・場所 山研 岳沢及び十石山

・参加者 会員名(同伴者)

中川博人 津田文夫 澤村眞治 村上 哲 (町口純司) 樽矢導章

CL 織田眞治(山下扶美男 宮田美香) 大庭保夫(大庭太洋子 塚谷義昭)

埴崎 滋 (高山千鶴 高桑眞智子 高桑祥子) 池本順平 (池本いく子 林由紀子)

以上19名

・行程 ①8/1 岳沢小屋(お花畑)往復

②8/2 十石山(2524.8m)

③8/1~2 自由行動

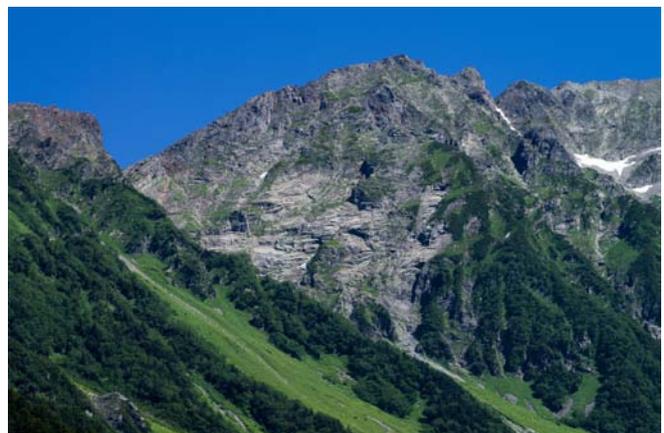
支部恒例“山研集会”に、参加者は選択した行程に合わせて三々五々集まってきた。

岳沢組は、09:00 山研集合の案内に合わせ8時頃には顔をそろえて挨拶を交わす。お一人 S先輩は前夜よりのお泊りでモーニングコーヒーならぬビールでほんのり顔を焼き出迎えてくれた。足並みそろえて登ることもないだろうと、3グループに分かれ岳沢小屋を目指し出発。まずは登山口脇の清水で喉を潤し、案内板No.10を確認する。“小屋の手前ヒュッテ跡がNo.0になります”と同行の女性3名に話しかけたが、後で2回の経験があると聞かされ赤面。No.6の天然クーラーで涼を取り、Mさん・Hさんグループに一足先にと歩を進める。No.3で先行のOさんたちに出会い小憩、奥様手作りの行動食を口にして元気百倍。小屋の生ビールの呼ぶ声が耳に届いたか“お先一杯やってきま

す・・・”小屋で待つことしばし、12:00までに皆さん揃ったところで乾杯。岳沢組は、これ以上は望めない青空のもと天狗原のお花畑で穂高の風に吹かれ、大満足のうちに今回の山研集会の目的を達したようだ。

18:00 支部長の挨拶、前支部長の乾杯の音頭で和やかな夕餉の始まり。(CL)Oさん、話の彩にとこの日に合わせての釣果の鮎・岩魚の焼き方に、笑いながら“こうゆうことが好きなんです、皆さんに楽しんでもらえれば・・・”と汗を流している。尽きぬ話に時間を忘れ、静かに上高地の帳が下りる。翌朝朝食を済ませ、07:00 十石山組は沢渡に向けて山研を立つ。

今日も素晴らしい天気、楽しい山行を満喫してください。(文・写真 池本順平)



7. (公益事業) 白山親子登山教室

■ 8月22日(土)～23日

・場所 白山

・参加者 (一般) 大西嘉和 宙人 飯山慈人 滉太 山戸博晃 直子 愛心 桶作幸宏 幸志
栗田真人 完果 敦大 貴人 大西美保 健心 村松遼成
(支部) 村上 前田 織田 樽矢 池本順 岡本 沢村 八十嶋 埴崎 前川 櫻井茂 藤井あ
松井

「山の日」は平成26年に制定され、平成28年8月11日から施行される運びとなった。
この「山の日制定記念」プレ事業として、石川支部では「親子で楽しむ白山親子登山教室」を計画実行した。
目的は「白山の雄大な自然の中で、親子の絆を育み、団体活動を通して自主性、協調性を深め、登山の基礎を身につけて安全で楽しい登山」を目指すこととした。
白山登山は、他の山岳会や公民館行事、子供会などで数多く実施されているが、これらと一線を画すため、当支部会員各分野のエキスパートによる講義とフィールド実習を行った。
座学は7月12日(日)と7月22日(日)9時～14時30分の2回「キゴ山ふれあいの里研修館」で行い、基礎知識を身につけた上で8月22日(土)から23日(日)に白山親子登山教室を実施した。

8月22日(土)雨のち晴

集合場所として市ノ瀬バス停前6時30分時間厳守とした。

各参加者は現地集合とし、支部会員は駐車場の混雑が予想されたので乗り合わせて市ノ瀬に向かった。

座学の講師多野元気象予報官によると、当日22日の天気は午前中は雨、午後から20%の降水確率であるが、翌23日は晴れであると。また雷の発生は無い、但し午後からは山の天気だからあまりすっきりはしないだろうとの予報だった。

7時の別当出合行きのバスに乗り、別当出合にいた頃は大粒の雨が降っていた。

ここで2班に分かれて、明日の晴の天気予報に望みを託して出発した。

1班はCL樽矢導章、SL池本順平、参加者8名サポート前田健進。

2班はCL織田伸治、SL八十嶋仁、参加者9名サポート藤井あゆみ、救護係松井大樹。

全体のサポーターとして澤村真治、村上哲、埴崎滋、櫻井茂紀、事務局前川陽、岡本明男実行委員長の総勢30名で登山を開始した。

今回の登山が初めての方が2家族いて、この2家族とも1班であった。

登山開始早々顔面蒼白の方がおられ、この先どうなることかと思っていたところ、徐々に顔色も良くなり、事情を聞くと吊り橋の揺れで酔ったようで時間と共に回復してきて一安心。慣れない登山に雨具を着て、雨で濡れたのか汗で濡れたのかわからない状態で甚之助避難小屋に11時8分に到着。ここで昼食を取り11時45分出発。

1班は遅れ気味だが、少し疲れも出てきて歩みも遅くなった人をSLの池本会員が励ましながら室堂へ向かう。

1班の元気な人は、前川会員を先頭にCL樽矢会員で先に室堂に入る。14時25分には全員室堂に無事到着。

室堂で宿泊の手続きを終えたころ、ようやくガスも上がり山頂が見えてくる。大急ぎで山頂をバックに記念撮影をする。その後は、徐々に天候は回復し雲海に沈む夕日を堪能する。夜半は満天の星空で、外へ出た人たちから興奮の様子が伝わってきた。

8月23日(日)晴

3時20分起床、昨日の疲労が抜けない1班の1家族を除いて、4時白山比咩神社の太鼓の合図を聞きながら全員頂上に向かう。

5時30分東の空の雲海から日が昇り始める。雨上がりの澄んだ空気のためかことのほかきれいなご来光だ。

白山に何度も足を運んでいるベテラン会員からも久しぶりに見た美しいご来光だったとの声が聞こえた。

初めてご来光を見た親子登山者には最高の贈り物である。この感激は一生忘れないのではないかと思う。この後、お池巡りをして室堂には7時25分に全員帰着。

朝食を済ませ、8時20分室堂前の広場に全員集合し、参加者に前川会員が地図の読み方をなるべくわかりやすく実地指導する。それでも小学低学年の子ども達には少し難しいと思う。

9時室堂発、五葉坂で登りの登山者とすれ違うも30名もいるとすれ違うのも一苦労である。

帰りはエコーラインコースで、途中ニッコウキスゲなどのお花畑は参加者の目を楽しませてくれる。

砂防新道の合流点では、登り・下りの人たちで



大賑わい。甚之助避難小屋で昼食を取る。

今日は天気も良く全員外で気持ち良く食事が出来た。

下りの途中子どもの一人が膝が痛いとの事で、池本会員がテーピングで手当をし、休みながらの下山となったが15時には全員別当出合に無事到着した。

今回の「白山親子登山教室」は石川支部にとって初めての一般向け登山教室であった。

座学の講師をはじめ、白山登山の会員スタッフのご協力を得ることが出来、全員無事に事故もなく終えることが出来た。

ここに実行委員会を代表し、関係各位に厚く御礼申し上げる。

アンケートによると「天気が一番」という感想がありました。まさにその通りです。

今回は、初日が雨で雨具を着ての登山でした。登るに従って小雨になり、時々青空も見える空模様から、室堂ではガスも上がり頂上が見える天気は、登山教室にとっては最高のシチュエーションとなり良い経験を積むことが出来たのではないかと思います。

そして沈む夕日を満喫し、夜半には満天の星空、天の川をくっきりと見る事が出来た。

雲海から湧き上がる素晴らしい「御来光」を拝むことが出来た登山教室。子ども達にとってすばらしい夏休みの思い出になったことだと思います。

皆さんお疲れ様でした。そして有り難うございました。

報告 「親子で楽しむ白山親子登山教室」
実行委員長 岡本明男 写真・八十嶋仁

<白山親子登山教室アンケート>

「山の日制定」記念のプレ事業として、JAC石川支部がH27年8/22(土)～23(日)にかけて実施した、「白山親子登山」の一般参加者(6家族:16名)へのアンケートを以下のとおりとりまとめたので報告します。なお、アンケートは、6家族の代表者から徴収したものであり、内容は以下のとおりです。

H27.8.24(事務局)

Q1 今回の登山教室はどこで知りましたか?

- ・知人等の紹介 3件 ・スポーツ店等のチラシ 1件 ・NHK ラジオ 1件
- ・その他 (1件 インターネット)

Q2 今回はカリキュラムに事前座学やフィールド体験を取り入れましたが、これらについて

- ① 講義時間の45分は ・丁度良い 6件・短い ・長い ・その他 ()
- ② 2日間の実施は ・丁度良い 6件 ・短い ・長い ・その他 ()
- ③ 講義内容は ・有益だった 4件 ()
 ・あまり有益でなかった ()
 ・無回答 2件
- ④ 同上 ・分かり易かった 2件 (子供には難しすぎ時間が長く感じたようだ。)
 ・あまり分からなかった 3件 (あまり知識がないので)
 (コンパス)
 ・無回答 2件

(注) 合計が7件になっているのは、親が自分と子供の両方の立場で回答したため

- ⑤ 特に印象の残った講義や希望する講義等があれば記入下さい。
 4件 (2件 八十嶋さんの講義)
 (1件 登山の経験談が面白かった。「持ち物は何が必要か？」と言った基本的なことを教えてくれてよかった。)
 (1件 世界の山を登った方の体験談が良かった。)
 無回答 (2件)
- ⑥ フィールド実習は
 ・とても良かった 5件 (出て、やってみるとというのが良かった)
 ・あまり良くなかった ()
 ・その他 (1件 参加できなかった。)
 ・フィールド実習全般について、何かご意見等があれば記入下さい。
 ()

Q3 今回の目的の成果について

今回の実施目的は、「白山の雄大な自然の中で親子の絆を育み、団体活動を通して自主性、協調性を深め、山の基礎を身につけて安全で楽しい登山を目指します。」とありますが、これらについて

- ・当初の思い以上に目的を達成できた 4件 (二日目の天気良かったので素晴らしい景色を楽しめた。) (天気が一番)
- ・おおむね、目的どおり達成できた 2件 (普段の鍛え方が不足しているのを実感した)
 (時間を守るための連絡が分かりにくかった。)
- ・あまり、達成できなかった ()
- ・全く達成できなかった ()

Q4 次回もこのような企画があれば参加したいと思いますか？

- ・是非、参加したい 5件 →ご希望の山があれば記入下さい。(2件：白山 1件：立山)
- ・次回の企画について ・宿泊の山が良い 2件 ・日帰りの山が良い 3件
- ・その他 (1件 もう子供と参加することはない)

(注) 重複回答 2 無回答 2

・ 次回は参加したくない ()

Q5 その他、今回の企画全体について、ご意見ご要望等があれば記入願います。

3件

(全体的によかったですが、ただ、子供には講義が少し難しいと思います。)

(大変貴重な機会をほんとうにお世話になりありがとうございました。)

(親切にさせていただき、ありがとうございました。)

以上

8.(公益事業)山岳講演会

■ 8月30日(土) 13時30分～15時

- ・ 場所 深田久弥山の文化館
- ・ 演題 「テリリッチミール登頂(7,708m) 1,971年日本山岳会石川支部の記録」
- ・ 講師 津田文夫 岡本明男
- ・ 支部聴講者 澤村 中川 大庭保 大庭太 大幡 太田 廣瀬正 石森夫妻 樽矢 織田 埴崎 谷路 前田 長清 前川 (15名)

本事業は、「深田久弥山の文化館(聞こう会)」との共催で、支部が「山の日」制定記念プレ事業として、白山親子登山教室に次いで実施したものであり、共に石川県山岳協会の後援事業でもあります。

当日は雨模様で、集客が懸念されたが定刻には用意した椅子(55脚)が満席となり懸念は杞憂だった。

冒頭、「山の文化館」の堂野事務長から講演会の趣旨と講師(津田さん、岡本さん)とテリリッチミール登頂者(岡本さん、澤村さん)の紹介があった。講演は、支部保有の当時のリバーサルフィルムを中川支部長がパソコンでの撮影用にカビ等を除去・補正の上、スキャナーし、画面に沿って初画面からC4までを津田さんが、以降登頂して生還

までを岡本さんが解説した。

講師やプロジェクターとスクリーンの一距離が近く、画面も当時の割にはクリアーで、臨場感十分だった。

大写しされるシーン毎の解説は端的で分かり易く、一同真剣に凝視していた。

大地図によるルート概要説明に次いで、荷揚げのキャラバン隊、各キャンプ、登攀ルート、クレパス・氷壁等の登攀模様、登頂、下山、生還等、若き隊員が目の前に次々と現れ、時間は瞬く間に経過した。

すべて印象的だったが、それらすべてを紹介できないので、自分が印象に残った解説をアレンジして紹介します。

- *津田さん
 - ・ C4から双眼鏡で見守った、動くからわかる微粒のアタック隊への全身全霊を賭した心からの応援は、真剣に生きた当時の証の一つとして、今思い出しても熱くなる。
 - ・ 道中、親日家の王族から受けた想定外の厚遇は通常ありえない体験として、感謝の気持ちを忘れない貴重な体験。
- *岡本さん
 - ・ スリップ事故等が4件あったが、それで遭難しなかったのは成果はもとより、大きな幸運だった。
 - ・ 登頂後の体力の消耗が激しく、帰路は自分のザックを人に持ってもらいどうにか降りた。
- *澤村さん 登頂成功で支部内の先輩たちが非常に喜んでくれた。

特に馬場勝嘉さんの喜びが大きかったのが印象的だった。

今回、栃木から名古屋へ引っ越された沖先生ご夫妻がわざわざ名古屋から来られました。石川県山岳協会からも松代理事ご夫妻や傘下山岳会メンバーがたくさん来られていました。みなさまご支援ありがとうございました。

(文：写真 前川陽)



9.乗鞍岳千町尾根

■ 9月5日（土）～6日

・参加者 八十嶋（CL） 西嶋 前川

長清さんが計画されてから2年越しでようやく実るも、最終的には3名の若干さみしいスタートとなる。

6時にもりの里に集合し一台で出発 もりの里（6:15発）～福光IC～高山～朴ノ木平（8:25着）

バスに乗り換え8:55出発。豊平着が9:40身支度を整え尾根下の広い道から頂上を目指す。肩の小屋着

10:15発10:30。乗鞍頂上着11:25神社に参拝後写真を撮ったり昼飯等の後11:40喧騒のコースから外れ狭い頂上にごった返す登山者の好奇心な視線を浴びつつ、無人の千町尾根コースへ分け入る。

取付は頂上から少し戻った杭から脇道へ下るが分かりづらい。頼りない赤ペンキに戸惑いながら大日岳（奥ノ院）の中腹を巻く。イメージ的には白山大汝の中腹道を感じ。ひと気のない西北西方面の長大な尾根を下るが、スケールが大きく実に爽快。大日岳中腹から千町ヶ原までは2体の石仏が随所に安置され、道中の安全を見守ってくれる。さらに千町ヶ原付近の石仏は近年製作された模様の家型の木枠に安置され、辺地にまで今なお及ぶ信仰心に心が洗われる。

13時、阿多野郷分岐（中洞権現）着。10分ほど休む。以降、這松帯となるが刈込がはかばかしくなく、登山道への迫り出しでまことに歩きづらい。

「この道には戻りたくないな」と一同話しながら、かき分け進む。足元が見えづらく皆よく転ぶ。15:10奥千町避難小屋に漸く着く。小休止の後、子の原尾根方面へ昔の記憶を頼りに八十嶋さんを誘い水汲みに下るが、探せず徒労に終わる。

小屋は快適で、川崎市から単独で来られた能美市出身のサワダさんと4人でゆったり使用する。

各自（3名）の酒と肴でそれぞれが適当に酔う。当初予定のここからのUターンを取り止め、丸黒山経由国立乗鞍青少年交流の家へ下山することに変更するが、朴ノ木平までどのようにして戻るかの課題が残る。

翌日は5:50に出発。雨は降っておらず頂上も展望出来たため、前川から自分が戻って車を青少年交流の家へ回すことも可能との提案がなされたが、リスクを伴う隊の分割は好ましくないとの総意で全員周回下山とする。あとは長い尾根をひたすら黙々と歩き続け、丸黒山手前鞍部8:27、丸黒山8:57、根性坂手前で予報通り小雨が降りだし、枯松平避難小屋10:25あたりから大降りとなり、国立乗鞍青少年交流の家11:45着。無事帰る。ここ

で再びサワダさんと会い、高山市のコミュニティーバス「のらマイカー」の紹介を受け高山市まで100円で帰る。高山市からは路線バスで前川が朴ノ木平まで車を取りに行き、全員19時過ぎに金沢へ。当初少ないと思った3人も道中の会話がしやすく、八十嶋さんのCLとしての迅速な行動や、西嶋さんの豊富なキャリアを通じた多種多様な話題は、ロケーションを含めて今回の山行の大きな収穫だった。(文：写真 前川陽)



10. 避難小屋保全清掃登山

■ 9月12日(土)～13日(日)

・場所 白山大汝避難小屋

“私達のふるさとの山「白山」、その山頂にひっそりと建つ大汝避難小屋。

岩間道・楽々新道・加賀禅定道・釈迦新道を登って来た登山者の「最後の拠り所」と

して、一年でも長く維持が出来るように、保全・清掃登山を今年も実施します。

皆様のお力添えを・・・”

(大汝避難小屋管理委員会 中川博人)

・参加者：西嶋(奥様)、樽矢、藤井あ、池本順

07:00 観光新道より入山。目的のある登山であり、Nさんご夫妻が日帰り先行していることを考えれば砂防新道を選ぶべきであったが、3人「8月親子登山」で時間をかけて砂防を使った事が頭にあり観光へと足を運ぶ。絶好の登山日和、足取りも軽く？5時間かけて室堂に。携帯を見ると(09:15)Nさんからの着信が入っていた、後で聞くと室堂からとの事。

12:10 Nさんの顔を目に散ら付けながら大汝避難小屋へと急ぐ。登り途中でゴミの大袋を手にして下山を急ぐご夫妻に遭遇、遅参を詫び小屋の状態の説明を受けた。要修理箇所、廃棄物、何よりも心ない登山者の手で壊されている入口ドアの事。“あのままにしておくくと雨が吹き込み腐食が早まる、立てかけてきたが自分たちの手には負えない。とにかく仕事は一杯あるから、時間も明日の朝までである頑張ってくれ・・・” 返す言葉もなく「ガンバリマス」。お二人を見送り先ずは小屋へ。Fさんは初めての大汝、避難小屋の泊りに期待胸膨ら

ませていることだろうが、(・・・あの小屋で扉が壊れている。寝袋に包まり寒さに震えて一夜を明かす光景を想像するとブルッ・・・)。山頂で、まず大汝神社に拝礼し小屋の下見にかかる。

この堅牢な扉をどのような力を加えたらこうなるのだ？引きちぎられている。去年、支部長たちと修繕した箇所は思ったよりしっかりと小屋を守っている。あの程度の処置でも、手掛けることにより小屋は生き長らえるのだと、今後の継続の思いに意を強くした。3人で出来る補修作業としてまず小屋左側の外壁腐食部分の板交換と石組みに取り掛かった。見た目恰好が付いた処で、次に扉をどうにかしないと。我々の耐寒訓練はどうにでもなるが、これでは避難小屋の要を成さない。補修道具が小屋に有り、調べてみるとL字止め金具が都合よく3枚あった、壊れ方も縦裂きで意外と綺麗に残っている。男手2人の力があれば何とかならないか。試行錯誤の末取り付けスムーズに開閉できるようになった、強度も大丈夫そうだ、思

わず顔を見合わせニンマリ。この修理が成っただけでも今回登って来た意義は達成できたと思う。暴風が屋根を揺るがし、夜通し吹き荒れる。こんな天候の一夜を過ごす、この小屋の有難さと、存在の大きさを実感する。とにかく良く耐えているものだ！

翌朝、吹き止まぬ強風を下山路の危険を感じ、Tさん「七倉」側の這松帯を巻いて降りることを提案。状況判断としての確なコース変更の指示の重要性を改めて認識する。単独だったらどうしただろう・・・。

幸い雨は小雨を保ち、「室堂」主任に小屋の状況を

説明して早々に下山。（文：写真 池本順平）



II.その他行事等報告

1. H27 年度自然保護全国集会

■7月11日(土)～12日(日)

- ・場所 かんぼの宿 青梅（東京都青梅市）
- ・参加者 安田 埴崎

本年の日本山岳会の全国自然保護全国集会が7月11日(土)・12日(日)東京都青海市の「かんぼの宿 青海」で開催され、石川支部からは埴崎さんと私の2名が参加しました。今回は自然保護委員会50周年記念集会で東京多摩支部との共催で参加者は東京多摩支部の前会長の森武昭さん、前日本山岳協会会長であった神崎忠男さんも参加されていました。参加者の総数は96名で北は北海道支部から南は広島支部の方々でした。

第1日目の午前は参加各支部の活動状況、直面している問題と課題が報告されましたが、時間が足りず意見交換はほとんどなかったのが心残りです。

午後からは山田日本山岳会副会長の挨拶、青海市の池田副市長の歓迎の挨拶の後、日本自然保護協会の辻村千尋さんが「南アルプスを貫くリニア新幹線の自然破壊について」講演され、トンネル掘削工事による地下水の涸渇や大量の残土による二次災害等々について語られ約90分間聴講した。

その後、日本山岳会自然保護活動のこれからの考えるテーマで日本山岳会自然保護委員会活動の歴史の報告と、パネルディスカッションが実施され、パネラーとして前会長の森さん、四国支部長の尾野さん、岐阜支部自然保護委員長の下野さんがそれぞれの立場で自然に親しむ中での自然保護、保全の啓蒙活動等について発言されました。

第1日目の締めくくりは、夕食と懇親会が大宴会場で開催され、参加者それぞれが有意義な意見交換の場となりました。

第2日のフィールドスタディは高尾の森見学コースに埴崎さんとともに参加しました。参加者は山田副会長、森前会長をはじめ総勢39名です。宿泊地のかんぼの宿を後にして青海駅から電車で高尾駅へさらに路線バスに揺られて大下バス停で下車し、小下沢川沿いの林道を歩いて約1時間、高尾の森づくりの拠点である小下沢のベース小屋に到着したときは、午前10時半頃を過ぎていました。ベースには立派な山小

屋風の建物があって周辺の敷地は広く、ヘリコプターが離着陸できるという話を聞きました。又、活動の様子を紹介するや大型のパネルや自然に関するいろいろな工作物、展示物が並べられていました。責任者から最近の活動状況について、最新のドローンを使った森林調査を始めたことや、センサーカメラ8台を使用して人工林、自然林、高尾の森づくりの会で植樹した落葉広葉樹の林の3形態別のほ乳類・鳥類の動画調査の説明を聞き驚いた。昼食後、森づくりを始めて15年、荒れたスギ・ヒノキの人工林を

間伐し、落葉広葉樹を14ヘクタールに約2万本植樹した林の一部を参加者が4班に別れて約1時間視察した。急峻な斜面の道づくりや植樹、ちょっと足を踏み外せば谷底に転落するような危険な場所での作業、子供たちも作業に参加している事を聞きびっくりする。ほんの一部分を見学しただけで、これまでの指導者の努力と指導のレベル高さが判る。その熱意の思いを残して高尾の森を後にしました。お世話して下さいました。本当にありがとうございました。

(文 安田二三男)

2.全国安全登山普及講習会「剣沢」

1.剣岳本峰南壁A1ルート

■9月19日(土)～21日

参加者 八十嶋仁

日本山岳会の有志が全国から集い、登攀技術などを習得する講習会に参加してきました。私は夏・冬合わせて3回目の参加です。

1日目は入山し、剣沢にある国立登山研修所の夏山前進基地に移動。基地の裏にある斜面で、懸垂下降、岩場での支点の取り方などの講習を受けました。石川支部で毎年行っているロープワークなどの研修と通じるところも多く、それほど難しいという印象は受けません。ただ、基地の裏の斜面とはいえ、岩にちゃんとリングボルトやハーケンが打っており、支点の選び方・確保のとりかたなどより実際に学ぶことはできました。

1日目の夜には交流会や自己紹介。何度か参加した私は、講師や参加者とも顔見知りが増えてきました。なかなか他支部のメンバーと交流する機会が少ない中、こうして同年代のJAC会員と友誼を深めることができるのは技術の習得以上に得がたいことです。ただ、東京の青年部の人は毎年人が入れ替わるため、知らない顔も多く見受けられました。聞けば東京の青年部は学生や山の素人の参加者が多いため、山の実力・情熱を見極めるための下部組織のようなものをつくり、そのレベルに合わせた山行や登攀を行って若手を養成しているとか。人材の多さをうらやましく感じると共に、石川支部にも同じような考え方を取り入れ、入会者の裾野を広げられないものかと思いました。

2日目の朝は4時半に剣沢を出発し、剣岳本峰の南壁(A1ルート)で登攀の実習。早朝の冷え切った岩の感触はなんとも言えず心地よいものです。快晴で紺碧の空と荒々しい岩嶺を見上げながらの岩登りは、剣岳の偉大さを骨の髄まで感じさせてくれました。岩が少々風化していて、気をつけないと手がかりだと思っつつかんだ岩が突然剥がれ落ちそうになることもありました。また、そうした岩質のせいか落石が多いと聞いていたため、浮石を落とさないように細心の注意を払いました。隣の尾根(A2ルート)にとりついたどこかの山岳会のメンバーたちはたびたび落石を起こしていて、岩の塊が谷底に落下すると落下音が雷鳴のようにとどろくので、肝を冷やしました。このルートの登攀の難しさとしては、倉ヶ嶽よりはすこし難しいかといったところで、東京青年部で富士山のガイドもしている菊地さんにリードをしてもらい、比較的余裕を持って登れました。しかし確保の手順など大事な手順がすぐに出てこなくて焦ることも有りました。もっと頻繁に岩登りをしなければ手が覚えてくれないということを再確認しました。

講習会を終わってみて思うことは、もっと岩に登りたいとモチベーションを新たにしたいということ、それにはやはり石川支部にももっと仲間がほしいということです。できれば会員、会友の中からも一緒に岩をやってくれる人がたくさん現れて、こうした講習会も一緒に楽しめ

ればと思います。講習会の内容は支部に持ち帰ってみんなに伝えるように言われているので、近いうちにできれば倉が嶽などでまた岩登りをやりたいと思います。

(文 写真 八十嶋仁)



2. 劔岳北方稜線ルート

■9月19日(土)～22日(火)

・参加者 前川陽

図らずも、YOUTH CLUBの主要行事に参加できる機会を得て、大変ラッキーに感じている。その支部への還元はキチンと行いたい。

1日目は劔沢の国立登山研修所の夏山前進基地で研修を受けたが、詳細は前項の八十嶋さんの原稿どおり。松原尚之 JAC プロガイドの印象的な言葉を一つ紹介する。ラベル(懸垂下降)で重視すべきは、支点の確認とポカミスの排除。いずれも命取りになるのでくれぐれもしっかり確認すること！だそうです。

今回のメンバー5名は自分以外は申し分なく、夢のようである。CLは前YOUTH CLUB委員長の野沢誠司さん、SLは尾野四国支部長、あとは四国支部の女性健脚者の越智さん、東京多摩支部所属の我が次男と私。YOUTH CLUBの親子参加は初めてだと、周囲から揶揄され若干面映ゆい。

二日目は当初池ノ平小屋を予定していたが、連休で取れず仙人池ヒュッテとなる。これが結果オーライで、晴天の元、仙人池に映える八ツ峰の秀麗さは見事で、これだけでも来たかいがあった。

今回参加し、北方稜線は、体力、バランス、ルートファインディング能力が不可欠に思った。これまでの山の経験を慎重、冷静に駆使すれば大丈夫だろうが、早大山岳部長も務められた野沢CLの指導はさすがで、ルートファインディング、リスク管理、その他、地名や山名、岩名等は適時・的確に教えてもらえ、有能なガイド登山同様であった。総ルートで自分的には池ノ谷乗越から頭の登りが雰囲氣的に一番ビビった。

YOUTH CLUB が平成12年4月に発足してから毎年

の劔岳攻略であるが、本年はチンネ左稜線を含め七つのバリエーションルートを攻略している。実力を有する素晴らしい山岳会ならではの行事も種々行っているが、地方からの参加はなかなか困難であることが課題だ。

今回、野沢さんのアドバイスも得て、支部単位での本部指導は財政上困難だが、例えば北陸単位(北陸支部)でまとまれば、出前指導も可能とのこと。そこで早速9/26～27日の本部開催の「支部合同会議」の合間に北陸三県の支部長に本案件を相談し、若手候補者が各県それぞれ3～4名程度いることも分かり、とりあえず北陸支部開設の方向で意見集約を図った。早速野沢さんにメールで報告したところ、調度本部の関連委員会に間に合うので、そこで本件を紹介しておくが、支部の現状を鑑みると、若手にこだわらず中堅を含めた「ワンダーフォーゲル部」創設の方が望ましく、それらも年齢で制限するのではなく、あくまでも「本人のやる気」で入会を判断してほしいとの意見をいただく。この方向で、富山、福井支部に連絡し、石川支部には、今後役員会に諮り具体的な実施内容を決定していくこととしたい。

周知の如く JAC では現在、組織存亡の起死回生策の一環として、支部活性化と YOUTH CLUB 活動による指導者育成を目指しているが、これに中堅を加えた指導者育成としての山岳活動を行うことは、技術向上に伴う支部活性化にもなり、それらは若手・中堅の次代の核要員育成としても、まことに有益であり、今後各位の協力をお願いするものです。

(Youth clubの詳細については本部HPを参照願います。)

以下、北方稜線のタイムです。

9/21(月) 仙人池ヒュッテ 起床3:30 発4:00 ⇒ 池の平小屋4:40~55 ⇒これより危険の看板5:20 ⇒雪溪取付5:43~55⇒雪溪終了6:20~30⇒小窓6:40⇒小窓王手前の急峻な沢の雪溪7:30~40(調査時間む。

今回は通常2か所の雪溪が1カ所のみで安堵。ロープを出さず、沢の雪溪脇を雪の途切れ箇所まで降りて登り返し渡る) ⇒小窓王直下(発射台上部)8:15⇒基部8:30⇒三ノ窓8:35~50⇒池谷乗越9:28~40⇒頭9:51⇒途中鞍部10:30~40 劔岳頂上11:15~40⇒

劔山荘14:20~25⇒前進基地15:00(帰還後報告書作成) (文・写真 前川陽)



3.H27年度支部合同会議

森会長から小林会長に替わった新体制での初の支部合同会議(支部長&事務局長)が以下のとおり開催されたので、要点等について報告します。

■ 9月26日(土)~27日

- ・場所 主婦会館プラザエフ(東京四谷駅前)
- ・参加者 支部長:中川 事務局長:前川

○9/26 13:00~17:30

(1) 会長挨拶要旨

6月に森会長の後任として選任された。本会議の目的は、本部と支部、および支部間のコミを密にすることにある。財政状況等厳しい現状を踏まえ、この度、旧の二つのプロジェクトを統合し「再生委員会」を発足させた。これはJACの再生化をそれぞれで考えるのではなく大きな一つの切り口で捉え、問題の解決を図るものであるが、実施には支部活性化とYOUTH CLUB活動を絡ませて推進し、組織強化と財政基盤の健全化を図っていきたい。

(2) 出席者紹介(役員、総務委員 全支部長&全事務局長が自己紹介した。)

前埼玉支部長の久保晴美さんが副会長に、千葉支部事務局長で石川支部会友の谷内さんが理事に就任された。

(3) 会務報告

① 日本山岳会の組織・業務執行体制

特命委員会(「再生委員会」「110周年記念事業実行委員会」)等を創設した。

② 日本山岳会の会員動向

通常会員数は減少傾向にあるが、青年会員(26歳未満)、新入会員数は増加傾向にある。

③ 支部における会員動向

支部別会員数では、石川は、32支部中28番目。新入会員獲得数0は石川、青森、宮崎の3県のみ。新入会員獲得支部上位3支部は東京多摩26名、広島21名、東海8名。

石川は危機的状況にあることを再認識。

④ 平成26年度の決算の概要

新入会員の増加や寄付金・助成金の収入で過去最大級の収益と費用を計上し、当年度の赤字幅は縮小したものの前年に引き続き経常損益は赤字で、以前財政状態は厳しい状況が続いている。

⑤ 日本山岳会再生委員会の今後の進め方

会員増強・財政基盤検討PTと収益・会員サービスPTは各々検討を進めてきたが、山岳会の活性化をトータルで考えることとし、二つのプロジェクトを統合した。前プロジェクトの担当理事であった前会長を委員長に、現会長を担当理事として進める。

推進内容としては、①「日本山岳会の現状と長期改善計画について」(H15.3山に掲載)の内容とプロジェクトが検討してきた施策の中から、実施可能な施策をピックアップし優先順位をつけスケジュール化を行う。②制度設計については「正会員を増強する」を基本とする。③Youth clubの活動、支部事業の活性化、各委員の施策も絡ませて推進する。

⑥ 110周年記念事業の推進状況

○海外登山(以下の6ルートに助成金支出 各100万円~450万円)

- ・支部(関西)主催海外登山→ナンガマリⅡ峰他、
- ・学術調査→クンプ地域、ゴジュンバ氷河
- ・極限探究→ウルタルⅡ峰未踏ルート アピ南西壁 カンチェンジュンガ地域(未踏壁)
- ・学生部・若手育成→男子カンチェンジュンガ隊

○記念ツアー(本部が企画し支部、会員に参加呼びかけ)

- ・グレートヒマラヤトレイル(ネパール国内トレッキング)
- ・ブータン・ヒマラヤトレッキング
- ・「日本300名山」ツアーの実施

○国際交流

- ・国際アジア学生登山

○出版事業

- ・日本三百名山の出版
- ・ヒマラヤの東-登山地図帳
- ・辺境からの発信(JAN)
- ・インドヒマラヤ(仮称)
- ・新日本山岳誌(第2班)の刊行
- ・インドネシアプロジェクト

○講演会等

- ・山岳医療シンポジウム

○記念式典

- ・式典内容の検討・実態

○寄付金募集

- ・110周年記念事業への寄付金募集

⑦ネパール大地震救援募金の状況等(単位:万円)

各団体の募金額(JACが代表窓口として処理)

- | | |
|-----------|-------|
| ・日本山岳会 | 1,370 |
| ・日本山岳協会 | 400 |
| ・日本勤労山岳連盟 | 200 |

・山岳ガイド協会	50
・日本ヒマラヤ協会	90
・日本ヒマラヤアドベンチャートラスト	30
計	2,140

⑧トレイルランへの名義後援の考え方

昨年7月の理事会決定「一般登山者の安全、環境保全の観点等から、トレイルラン自体を否定するものではないがイベントとして実施される事業への本会の名義後援は行わない」を原則としつつもこれに依り難い特別な事情がある場合には、個別に検討する。

(4) 業務説明

①事業計画書の作成について

・公益目的事業について

学術、技芸、慈善その他の公益に関する不特定且つ多数の者の利益の増進に寄与するもので具体的には、公益法人認定法第二条に定める23種を云う。

<公益目的事業費率>

公益目的事業費

公益目的事業費+収益事業等の費用+管理費

にて計算され公益法人は50%以上要請される。因みにJACはH26年度は約70%であった。

(注)・公益法人を維持するための収益事業は実施可能。

・支部で行っている登山教室の講師のレベルアップ山行などは公益事業。

・事業計画書・事業報告書の作成

・助成金、寄付金等を受けるための取り組み

②会計報告の作成

・会計報告書作成の留意点

・寄付金の取り扱いについて

(5) 協議・意見交換

①財務改善に関する意見交換

②「山の弁当」の取り組み（再生委員会）

広島県岳連では、ザックの中でひっくり返っても大丈夫で、山で美味しく食べやすい「山のおべんとう」を提案し、地元の弁当業者が販売している。弁当作成のコンサル料として、弁当1個に1パーセントのロイヤリティを徴収し収益を上げている。JACでは首都圏が既に高尾山で検討しており、全国への水平展開として紹介。因みに広島の「山のおべんとう」は、安田さんと前川が広島で試食済みであるが、パッケージも山が描かれ感じよく、山で食べやすく、とてもおいしかった。

○9/27 9:00~13:00

(1) 日本山岳会説明会用動画の支部への提供

新入会員募集用に総務委員会がすべて手作りで作成した力作。素人のナレーションが少したどたどしいが全体的にはよくできており、支部用にアレンジも可能とのこと。

内容は以下のとおり

- ・なぜ組織に入る必要があるのか？
- ・日本山岳会の五つの特色

- ・ 日本山岳会の歴史
- ・ 組織の紹介
- ・ 施設の紹介
- ・ 全体の大きな行事
- ・ 情報
- ・ おもな社会貢献活動（公益活動）
- ・ おもな支部の社会貢献活動（公益活動）
- ・ 会員を対象とした活動（共益活動）
- ・ 山岳会の保険について
- ・ 入会後の活動について

(2) 協議・意見交換

- ①各支部における平成28年度「山の日」取り組み予定について
石川支部はH27年度プレ実施の2件に準じた施策展開を予定
- ②家族登山（親子登山）事業の各支部における実施について
石川支部は「白山親子登山教室」を実施
- ③支部の事業推進のためのブロック割について
全国を9ブロック（①北海道 ②東北 ③北関東 ④南関東 ⑤中部 ⑥東海・北陸 ⑦近畿
⑧中国・四国 ⑨九州）に分け、石川は東海・北陸（富山、石川、福井、東海、
岐阜）ブロック案が提案される。

各支部からの意見集約後、本部で最終調整を実施。

(3) 連絡事項

- ①第32回全国支部懇談会について（越後支部）

越後支部が創立70周年を記念し開催。

- ・ 期日 平成28年4月9日（土）～10日（日）
- ・ 宿泊 岩室温泉「ゆもとや」 新潟市西蒲区岩室温泉 9-1 0256-82-2015
上越新幹線 燕三条駅より車約30分 無料送迎バスあり
- ・ 親睦登山 西蒲三山 「弥彦山 角田山 国上山総体」実施山塊 弥彦山（標高634m）
- ・ 参加者 JAC会員・会友および関係者（200名予定）
- ・ 参加費 16,000円（一泊三食付き 二次会 親睦登山込み）
- ・ 申込期間 H27.10.15（木）～H28.1.15（金）

***参加希望者はH28.1/10までに石川支部事務局前川までメールまたは電話でお申込みください。**

参加希望者には日程表を送付します。

- H29年度の全国支部懇談会は、茨城支部予定です。

- ②平成27年度晩餐会について

平成27年12月5日（土） 新宿京王プラザホテル

平成27年度支部長会議 110周年記念式典 年次晩餐会

- ③事務局からの連絡事項

- ・ 2015 2016 役員、支部、委員会名簿の配付
- ・ 支部メールの登録に関して
未登録メールの登録催促・・・石川支部では前川が未登録であったため登録（9/30）

- ・各種届書に関して
- ・入会申込書に関して
- ・物故に関して
- ・グッズに関して
- ・刊行物、刊行書に関して

④今後の主な日程

- ・H27.12.5 (土) H27年度支部長会議 110周年記念式典 年次晩餐会(新宿京王プラザホテル)
- ・H27.12 初旬 H28年度支部事業計画・予算提出依頼
- ・H28.1 中旬 H28年度支部事業計画・予算提出期限
- ・H28.2 下旬 H27年度支部事業報告提出期限
- ・H28.3 下旬 H27年度支部会計報告提出期限
- ・H28.6 下旬 H28年度支部総会報告(資料含む)提出期限
- ・H28.6.11 (土) H28年度通常総会
- ・H28.12.3 (土) H28年度年次晩餐会

(報告 前川陽)

Ⅲ今後の行事予定

各参加申込は、指定期日までに事務局または各担当者までお願いします。

概要のみ記載されているものは、別途担当者から参加者へ詳細通知します。

1.紅葉山行

■10月3日(土)～4日(日)

- ・場所 涸沢
- ・担当者 大幡
- ・申込 締め切りました
- ・参加者 織田(C L) 大幡 前川

◇行き 10/3(土) 集合 午前5時 金沢もりの里「酒のやまや」駐車場
 金大方面へ曲がってすぐ「イオン」の隣
 金沢～福光～高山～あかんだな駐車場～上高地
 (ここまでロス時間を含み約3時間半)
 上高地～涸沢(休憩時間を含め約8時間)
 ・涸沢着 16時過ぎ頃を予定

◇帰り 10/4(日) 涸沢発 6:30～パノラマコース経由徳沢～上高地(休憩時間を含み約6時間半)
 ・上高地到着 13時頃予定
 ・金沢着 17時頃予定

2.5支部合同懇親山行

今年は石川支部が担当ですので、会員、会友の一層の参加協力をお願いします。

現在、実行宇委員会(会長:関本副支部長)を中心に準備中ですが、皆様には各担当をお願いする場合がありますので、その際はよろしくをお願いします。

1. 日程 平成 27 年 11 月 7 日（土）～8 日（日）
2. 場所 小松市粟津温泉 「露天のゆ 金閣」 Tel (0761) 65-3300
3. 会費 15,000 円 [宿泊費 14,000 円（酒込）＋翌日弁当お茶 1,000 円]
（注）キャンセル料は、前日（11/6）から宿泊費の 80%かかります。
4. 申込等 締め切りましたがとりあえず事務局までご連絡ください。
なお、11/8 の希望コースは、今回当支部は幹事なので、実行委員会の方で適宜割り振らせていただきますのでご協力願います。

<前川：電話・メールアドレス> 090-2120-3747 maekawayo@gmail.com

5. 予定内容

◆ 11/7（土）

- | | | |
|-------------|-----------|---|
| 15:00～ | 受付（集金） | 露天のゆ金閣 1F ロビー |
| 16:00～16:30 | 山岳講演会 | 「不惑新道・火燈古道」復旧整備について
大庭保夫会員 |
| 16:30～17:30 | 山岳講演会 | 「ティリッチミール登頂（7,708m）1,971 年石川支部の記録
津田文夫前支部長 |
| 18:00～20:00 | 懇親会 | |
| 20:15～22:00 | 二次会（自由参加） | |

◆ 11/8（日）

7:00～朝食

8:00 1F ロビー集合 弁当・お茶配付（集合写真後希望コース別に並ぶ）

○山岳コース（火燈山登山）

旅館発 8:20（各自車） ⇒ 登山口（山中温泉大内町）8:45 着 9:00 発 ⇒ 火燈山（803m）
經由小倉谷山（910.6m）12:00～13:00（昼食）⇒登山口 15:00（解散）

○観光コース（那谷寺～中谷宇吉郎館～深田久弥ゆかりの地散策及び山の文化館）

旅館発 8:20⇒那谷寺 8:30～9:10⇒中谷宇吉郎雪の科学館 9:30～10:00⇒
深田久弥ゆかりの地散策及び深田久弥山の文化館見学（昼食）10:20～13:00（解散） ¥観光
コース費用 *那谷寺 600 円/一人 550 円/30 名以上 *中谷宇吉郎館 500 円/一人 420
円/20 名以上 250 円/75 歳以上 *山の文化館 300 円/一人

250 円/20 名以上 150 円/75 歳以上 *各入場料は参加状況を勘案し現地で集金します。

3. 山祭り

■ 11月28日（土）～29日（日）

- ・場所 「生活改善センター」小松市大杉町
- ・担当者 関本 池本
- ・申込 11/18 までに事務局または担当者まで

4. 支部長会議・110周年記念式典・年次晚餐会

■ 12月5日（土）

- ・場所 東京 新宿京王プラザホテル
- ・申込 別途、本部からの返信はがきによる。
参加状況を把握するため、参加希望者は支部事務局にもご一報ください。

IVその他お知らせ

1. 「改訂 新日本山岳誌」訂正ゲラの確認について

本年3月に送付した「改訂 新日本山岳誌」の最終ゲラ校正が9月初めに事務局に届きましたが訂正ゲラの方先到着が9/18とタイトであったため、皆様に返送することなく一括事務局で目を通し以下のとおり一部、補正、変更させていただきました。

なお、それらについてはすべて執筆者、および執筆者死去の場合は後任の校正者の確認をいただきましたが、それらの内容は以下のとおりです。

①執筆者死去に伴う改訂者の追記（執筆者の次に以下の氏名を追記）

笠山（中川博人） 笈ヶ岳（中川博人） 白山（御前峰）（西嶋鍊太郎） 大倉岳（前川陽）
刈安山（大庭保夫） 水無山 350m（大庭保夫）

②執筆者の訂正

大日山を本来の執筆者である太田義一に変更（訂正ゲラが太田義一になっていて判明）

③ルビの訂正および一部削除

山毛櫛尾山 四塚山 三村山の文中の「尾添」のルビを「おぞう」に統一。

それぞれ、おおぞ、おおぞ、おぞとなっており、白山市役所に問い合わせた結果「おぞう」が正式名であったため。

大倉山の文中「犀川の犀川ダム」の表記で「犀川の」はしつこいため、これを削除。

④白山（御前峰）の「登路の前文を以下のとおり変更

砂防新道、観光新道、平瀬道の三つの6km台のメインコースとそれに付随したサブコースがある。
さらに12～26kmの九つのロングコースがある。

⑤大日山の「登路」の末文を以下のとおり変更

この他に小松市新保町木地小屋からのルートと、小松市大杉町から鈴ヶ岳を経由するルートがある。
これらの合流点のブナ平には小松市が建設した大日山自然学舎（カタクリ小屋・無人）があり、自然観察や避難小屋として利用できる。

⑥大倉岳の「登路」の前文を以下のとおり変更

尾小屋鉱山資料館口に登山道の案内板がある。最初広い道を進むとやがて十一面観音があり、ほどなく山道に入る。しばらく進むと平坦な園地になり水もある。

以上

2. 山の日制定記念講演会（山陰支部主催 広島支部、四国支部協賛）

○第2回「山の日」を語る大山集会

- ・日時 平成27年10月31日（土） 15:00～16:30
- ・場所 ホテル大山会議室（大山寺） TEL0859-52-2111
- ・講師 重廣 恒夫 氏（日本山岳会監事）
- ・入場料 無料

3. 北海道支部創立50記念祝賀会

- ・日時 平成27年12月12日（土） 15:30～ （15時開場）
- ・場所 ロイトイン札幌 2階会場 札幌市中央区北1条西1丁目
TEL011-271-2711 地下鉄東西線「西1丁目」駅1番出口から徒歩3分
JR札幌駅から車で5分
- ・会費 5,000円

- ・申込 11/27（金）までに支部名、役職名、氏名、住所、連絡先、宿泊の手配を次のメールアドレスへ。 hkd@jac.or.jp 西山支部長連絡先(Tel/Fax) 011-386-4624

*式典内容等詳細は石川支部事務局までお問い合わせください。

4. 京都・滋賀支部創立30周年記念式典・記念交流登山

1. 期日 平成28年4月23日(土)～24日(日)
2. 場所 世界遺産比叡山延暦寺 山内延暦寺会館 Tel077-578-0047
大津市阪本本町比叡山
3. 参加者 会員・会友
4. 参加費 17,000円(宿泊・祝賀会費等)
5. 申込 H28年1月20日まで石川支部事務局まで (参加者には別途詳細情報の提供あり)

<編集後記>

今回 YOUTH CLUB の山行に参加して、意気盛んな若者が多数して劔岳を多方面から果敢に攻略する姿を見て、JAC の将来に明るい希望を見いだせたことは何よりである。この勢いをなんとか石川支部にも誘引したく思う (A.M)

日本山岳会石川支部報
発行日 2015年(H27年)10月1日
発行者 公益社団法人日本山岳会
石川支部長 中川博人
編集者 事務局長 前川 陽
電話 076-232-3555
E-mail isk@jac.or.jp